

ASA  
大田中央

ASA  
東大井

有限会社 芝原新聞販売

Presents

2008.6月

ASAスタッフは町歩きの達人でもある。  
朝日新聞販売店発、近所散歩ミニミニ

# 歩く目的

No.14

(毎月25日発行)



1

### 1 船のような博物館

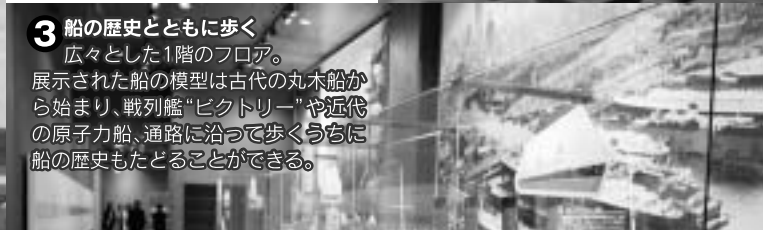
ドーンと巨大な船のような形をした博物館に、出航前のような高揚感をかきたてられる。

### 2 乗り込んだのは豪華客船?

博物館というより、豪華客船のようなロビー。ドーム型の天井にはシャンデリアが輝く。



2



### 3 船の歴史とともに歩く

広々とした1階のフロア。展示された船の模型は古代の丸木船から始まり、戦列艦“ビクトリー”や近代の原子力船、通路に沿って歩くうちに船の歴史もたどることができる。



### 4 こんなところに潜水艦

2階フロアに、によきつと突き出た黒いセイル。階段を降りてみると…



両舷全速、  
ヨーソロ!

### 5

潜水艦  
赤い旗  
潜水艦  
ドルネ  
変わり  
操縦体

### 6 子どもだって男のロマン

プールの海を進むラジコンの船。黒船から南極観測船「宗谷」まで、13艘から好きな船を操縦できる。土日には水中に潜れる潜水艦も登場するらしい。(1回100円)

### 7 和洋中、30種類以上のメニュー!

お昼は4階のレストランで東京港を眺めながらのランチバイキング。肉まん、焼きそば、プチケーキと、料理はバラエティに富んでいて、あれもこれもとつい食べ過ぎてしまう。シーサイドレストラン「海王」ランチバイキング平日1,500円、土日祝1,800円(11時~15時)



7



### 8 港湾都市の風景

ちよつと海を眺めたいと、3階のバルコニーに出て、そのまま6階まで。眼下に広がる東京湾。停泊する大型船舶、エンジン音や警笛の音が潮騒に混じって聞こえてくる。その後、あっちへ行ってみよう。

## 船の科学館

# 船のデッキや歴史を歩く。

お台場の目と鼻の先、東京港に面した「船の科学館」。館内には古今東西の船の精密模型などが約300隻。隣接した棧橋では、船内を歩ける歴史的な船舶が公開されている。館内には古今東西の船の精密模型などが日常とはかけ離れた船の世界。一日たっぷり楽しめる上に、意外とたくさん歩けるスポットだ。

大きい船だなあ~

### 9 上には上の景色

見上げればモニュメントのようにどっしりと、白い展望塔が空を突く。

### 10 「宗谷」に行く前に

博物館から外へ出て、前庭エリアをひと巡り。まるでオブジェのように芝生の間に点在するかつての海の勇者たち。

### 潜水艇「たんかい」

まん丸ボティの小型潜水艇。海洋調査に活躍した頃は、まさか椰子の木陰で余生を過ごすとは思いませんでした。



### 大型スクリーブプロペラ

5万トン級の大型船のプロペラ。直径6m! こんな大きなプロペラがゆっくり回る光景を想像する。



### 街角で歴史発見!

### 日本最古の木造灯台

プール脇には、安乗埼(あのりさき)灯台という木造の八角形の灯台が移築されていた。これは明治6年(1873)に三重県志摩半島で設置されたもので、現存する木造灯台としては日本最古のもの。



### 11 博物館のシンボル、2隻の雄姿

日本初の南極観測船「宗谷」と青函連絡船「羊蹄丸」。どちらも保存展示船として現在も多くの来場者を迎えている。かつての船員の姿をイメージしながら、乗り込んでほしい!

### 12 宗谷に乗船!

全長83.7mのオレンジの船体は、南極の海で活躍した当時と、ほとんど姿を変えていないという。高々とそびえる白いマスト、今にも船は進み出すかのようで胸が高鳴る。



### 13 味のある木造甲板

多くの乗船者を物語る、磨り減った甲板。意外と小さく、こんな船体で南極の氷の世界に挑んだとは…当時の船員たちの勇気に感服。



### 14 船内を歩く

迷路のように入り組んだ狭い通路。両側には、寝室、食堂、治療室まである。当時のままの部屋からは、かつての船員たちの会話や笑い声が聞こえてくるかのようだ。



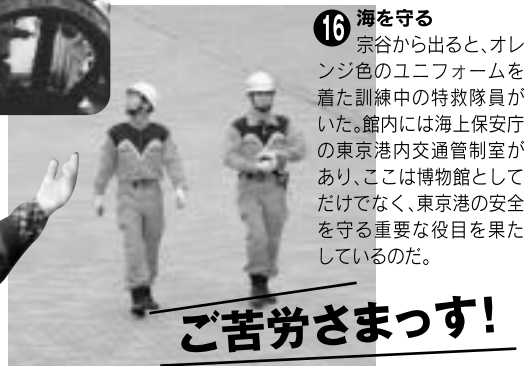
### 15 宗谷の要

操舵室には、直径1m近くもある大きな舵輪。実際にゴロゴロと回してみるとなかなか重い。船の操縦には体力も必要だったのだと身をもって知る。



### 16 海を守る

宗谷から出ると、オレンジ色のユニフォームを着た訓練中の特捜隊員がいた。館内には海上保安庁の東京港内交通管制室があり、ここでは博物館としてだけでなく、東京港の安全を守る重要な役目を果たしているのだ。

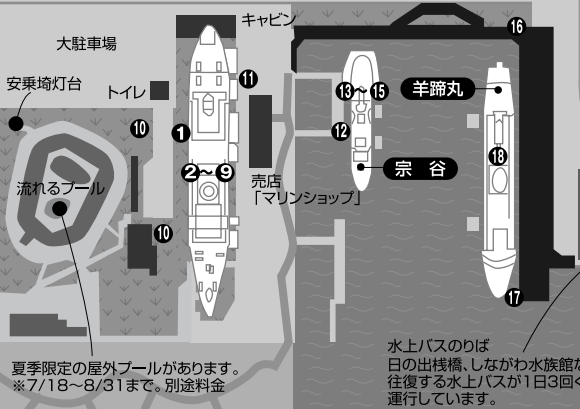


**ご苦労さまっす!**

※次回は、「平和の森公園」を散策する予定です。

新交通ゆりかもめ「船の科学館」駅

●バス停 船の科学館駅前



**船の科学館** 品川区東八潮3-1 営/10時~17時 月曜休 問(5500)1111  
入館料/大人700円 18歳以下400円 ※6歳以下の未就学児は引率者1名につき2名まで無料 交通:新交通ゆりかもめ「船の科学館」駅下車すぐ

### 17 最後は羊蹄丸

本州と北海道を結ぶ航路に就航し、多くの人々の重要な足となった船。全長132mの船体。「宗谷」に比べてその大きさに驚き!

### 18 そこは昭和30年の青森駅だった

船内の「青函ワールド」では、人形から青森弁が賑やかに飛び交う。冬の海産物が並ぶ魚菜市場では夫婦が喧嘩の真っ最中。昭和30年の青森駅前が再現され、まるでかつて羊蹄丸が見てきた世界に、タイムスリップしてしまったかのよう。世界中の船とその歴史を歩いて回った今回の歩く目的。船のひとつひとつに異なる世界があり、歩くことで海へのロマンはさらに広がっていく。見るだけの博物館では、こうはいかない!



今回の歩いた歩数は…  
**12,085歩**

ちなみに羊蹄丸の船尾から船首までは112歩でした。

バックナンバー差し上げます。(専用バイナード付)

- 創刊号「内川の終点まで歩く」
- 第2号「近所で迷う」
- 第3号「休日のフリマへ」
- 第4号「青物横丁の鯉」
- 第5号「気になる店に入ってみる」
- 第6号「白田坂漫遊」
- 第7号「駅前で歩いて散歩道」
- 第8号「運河までひと歩き」

- 第9号「池上のお山にのぼる」
- 第10号「水族館水中散歩」
- 第11号「大森名物のり探し」
- 第12号「野鳥公園で1日」
- 第13号「朝市は三文の徳」

ASA大田中央・ASA東大井までご連絡下さい。